

福井県経済の特徴

目次

1. 概要	1
2. 特色	6
3. 産業構造	8
4. 主要産業の特徴	9
5. 今後の課題	18

1. 概要

(1) 地理

福井県は、かつての「越前」（現在の敦賀市以東の福井県の区域）と「若狭」の2カ国で構成され、本州中央部やや西寄りの日本海に面しています。面積は、4,190 km²で、わが国総面積の1.1%を占めています。

県内は、県中央部に位置する山中峠、木ノ芽峠、栃ノ木峠を結ぶ山稜を境に、南越前町から以北の「嶺北」と、敦賀市から以南の「嶺南」に区分されます。



(Map-It 作成)

▽ 県内の地域別構成比 (2018年10月) (%)

	嶺北	嶺南
面積	73.7	26.2
人口	82.2	17.7

(資料) 福井県「福井県市町勢要覧 平成30年度版」

県内は、総延長が400kmを超える長い海岸線が続いています。沖合は、対馬海流（暖流）とリマン海流（寒流）がぶつかることから、好漁場となっています。毎年11月から翌年3月にかけて県内で水揚げされる「ズワイガニ」＝「越前がに」はこのような海域に生息し、全国的に有名な最高級品です。また、

背後は、山岳地帯に囲まれ、雪解け水が九頭竜川などに流れ込み、良質な水資源に恵まれています。

—— 福井県は、ミネラル分を含んだ地下水に恵まれ、水道の水源の7割を地下水に依存しています。これが、福井県の米や日本酒、蕎麦などの美味しさにつながっています。

▽ 福井県の地理的特徴

面積	4,190 km ² （うち森林74%、農用地9%）（2017年）
最も高い山岳	白山連峰・二ノ峰（標高1,962 m）
最も長い河川	九頭竜川（流路延長111 km）

（資料）福井県「福井県市町勢要覧 平成30年度版」、「平成30年（第66回）福井県統計年鑑」



（資料）openstreetmap.org

（2）気 候

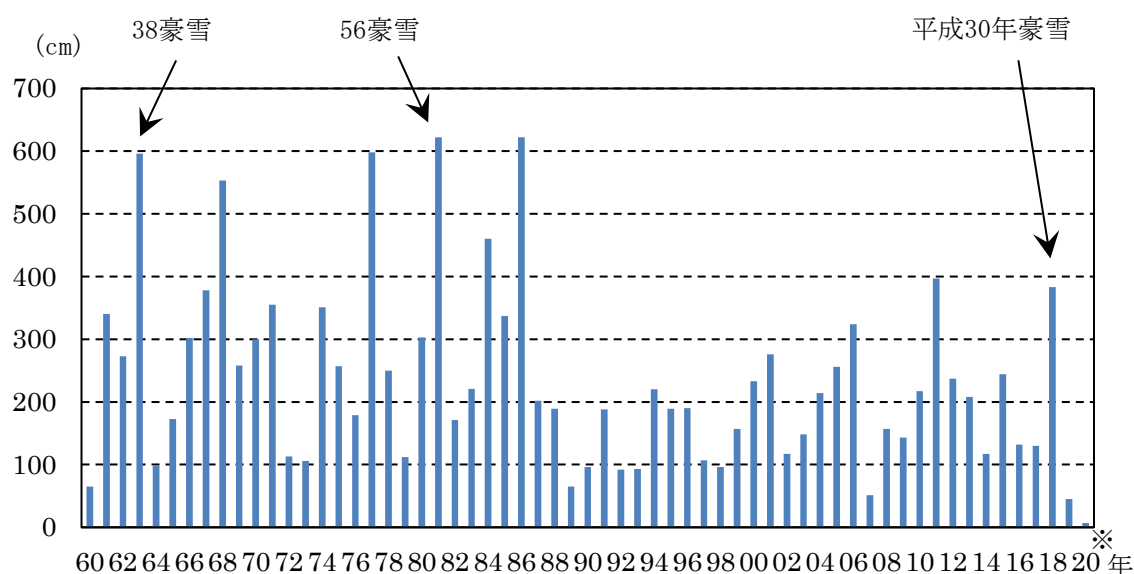
日本海側に特有な気候で、夏は蒸し暑く、冬は雪の日が多い傾向があります。秋から冬にかけて激しく鳴り響く雷（「雪起こし」）も特徴の一つです。1963年（昭和38年）に「38豪雪」、1981年（昭和56年）に「56豪雪」、更に2018年（平成30年）に「平成30年豪雪」を経験していますが、均してみますと、1980年代後半以降は、降雪量は少なめで推移しています。

▽ 福井県の気候面の特徴

年間降水量	2018年	2,632 mm	全国5位
年間日照時間	2018年	1,844 時間	全国39位

（資料）福井県地域戦略部統計情報課「令和元年版 一目でわかる福井のすがた」

▽ 福井市の年間降雪量の推移



(資料) 気象庁ホームページ

※2020年は6月時点。

(3) 人口

福井県の総人口は、2000年の829千人をピークに減少に転じ、2018年には774千人となっています。先行き、2045年には614千人に減少するとの予測も聞かれます。また、65歳以上人口の割合は、今後も、全国平均を上回って推移するとの予測も聞かれます。

▽ 人口・世帯数等

	総人口 (2018年)	人口密度 (2015年)	世帯当たり人員 (2015年)
福井県	774千人 (全国43位)	188人/ km ² (全国31位)	2.75人 (全国2位)
全 国	126,443千人	341人/ km ²	2.33人

(資料) 総務省統計局「人口推計(平成30年10月1日現在)」、同「平成27年国勢調査」

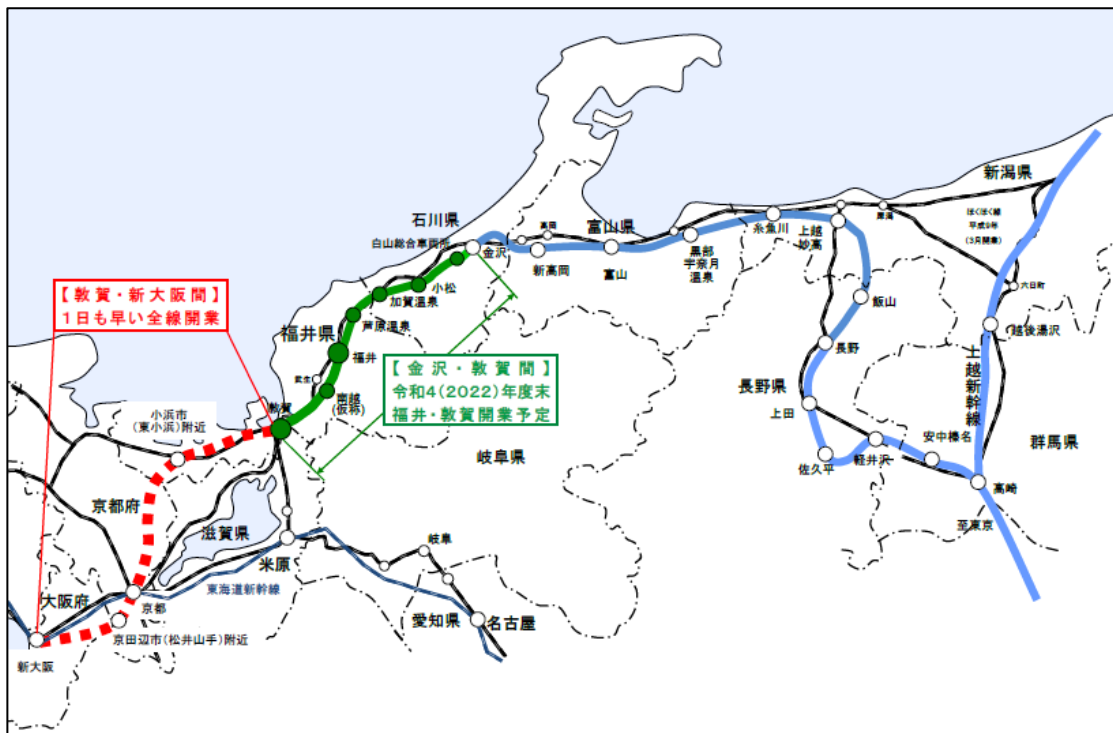
▽ 総人口および65歳以上人口の割合の将来予測 (2015年は実績)

	2015年	2025年	2035年	2045年
福井県の総人口	787千人	738	680	614
65歳以上人口の割合	28.6%	32.5	35.0	38.5
全国の65歳以上人口の割合	26.6%	30.0	32.8	36.8

(資料) 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)」

(4) 交通

現在、福井県と周辺地域を結ぶ高速交通ネットワークの整備が進展しています。鉄道については、2015年3月に長野新幹線（東京～長野）が石川県金沢市まで延伸され、「北陸新幹線」として開業しました。北陸新幹線は、2023年3月までに、福井県内では、福井市を經由して、敦賀市まで延伸する予定となっており、4つの新幹線停車駅¹を中心とするまちづくりや観光資源の整備に取り組んでいます。また、敦賀～新大阪間の延伸についても、2019年5月に整備ルート（小浜・京都ルート）が決定され、整備が進められています。



(資料) 福井県新幹線建設推進課

高速道路網をみると、北陸自動車道²が嶺北を縦断するとともに、舞鶴若狭自動車道³が嶺南を縦断し、これらは敦賀市の敦賀 JCT でつながっています。また、中部縦貫自動車道⁴については、福井県内では、大野市の大野 IC－福井市の福井北 JCT・IC 間が開通しており、福井北 JCT で北陸自動車道とつながっています。残る大野 IC－油坂出入口間でも、2021年3月までに大野 IC－大野市

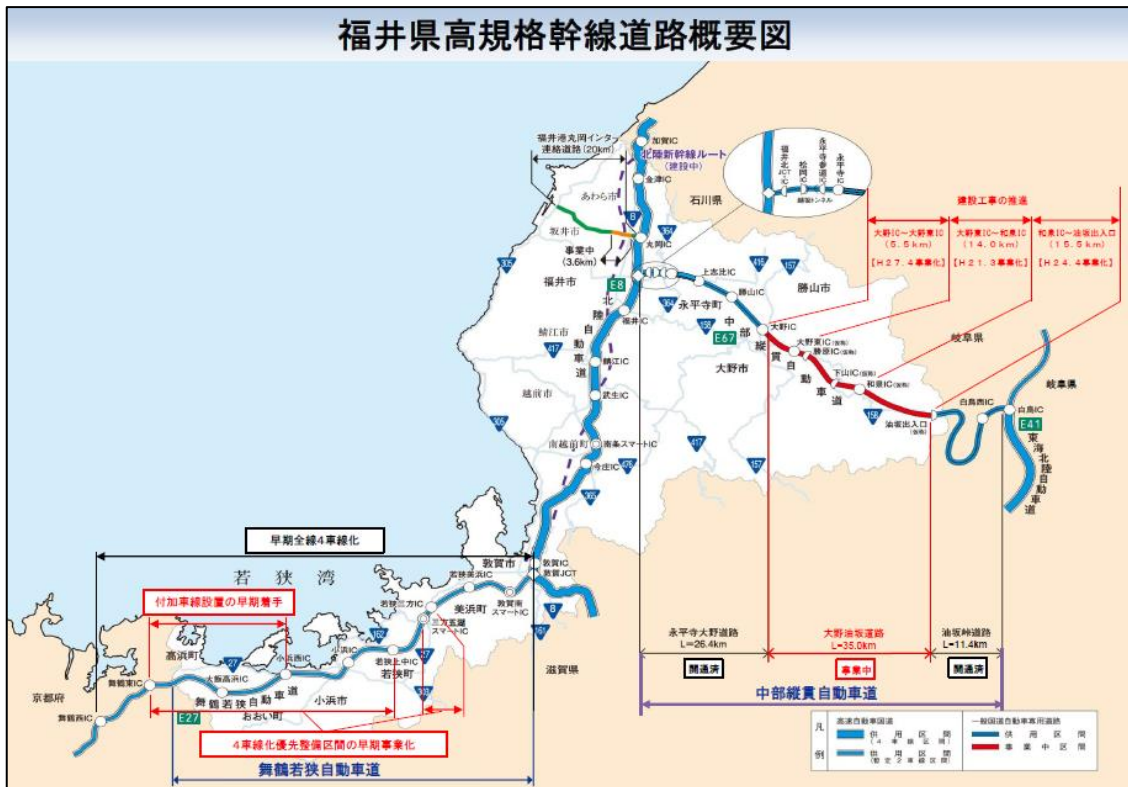
¹ 芦原温泉駅、福井駅、南越駅（仮称）、敦賀駅。

² 北陸自動車道は、滋賀県米原市（名神高速道路米原JCT）を起点として、福井県を經由し、新潟県新潟市（磐越自動車道・日本海東北自動車道新潟中央JCT）に至る高速道路。

³ 舞鶴若狭自動車道は、兵庫県三木市（中国自動車道吉川JCT）を起点として、福井県敦賀市（北陸自動車道敦賀JCT）に至る高速道路。

⁴ 中部縦貫自動車道は、長野県松本市（長野自動車道松本JCT）を起点として、福井県福井市に至る高速道路。松本JCTから、岐阜県高山市で東海北陸自動車道に接続する区間は一部開通済み。同自動車道を経て、同県郡上市（白鳥IC）で分岐し、油坂出入口を經由し、福井市に向かう計画となっている。

の和泉IC間が開通する見通しとなっているなど、早期開通を目指し、工事が進められています。



(資料) 福井県高規格道路課

県内の港湾は、「重要港湾」の敦賀港と、「地方港湾」の福井港、和田港、内浦港、鷹巣港の5港です。敦賀港は、天然の良港で、古くからアジア大陸との交易拠点として栄えました。近年は、大型クルーズ船が寄港するほか、京阪神、中京の二大経済圏とのアクセスに優れている点が改めて注目され、海外等への玄関口となる物流拠点としての強化や南海トラフ地震等が発生した場合の太平洋側の大規模港の代替港としての活用が図られています。福井港は国家石油備蓄基地等のエネルギー基地や、臨海工業団地である「テクノポート福井」の拠点港、物流基地としての機能を担っています。



(資料) 福井県港湾空港課

福井港は国家石油備蓄基地等のエネルギー基地や、臨海工業団地である「テクノポート福井」の拠点港、物流基地としての機能を担っています。

2. 特色

(1) 県民性

福井に暮らす人々の県民性については、次のような指摘がなされています⁵。

福井の県民性を語る時、粘り強くて、まじめ、勤勉で人情に厚いとよくいわれる。これらの県民性は「越山若水」⁶とも例えられる恵まれた自然、豪雪などの自然条件、さらには歴史性などに深く関わって形成されてきたものと考えられる。

歴史性との関わりでは、才覚があり粘り強くてよく働くという気質は、中世以来越前は重要な交易路に位置していたため、早くから商人文化が栄えたことに基づくものといわれる。… (略) …。

県内でみると、石川県と岐阜県に接した越前国は勤勉実直で粘り強い越後気質と共通するものがあり、… (略) …、家族への愛情には深いものがある反面、世間体重視の見栄っ張りの体質がある。

一方、京都府と滋賀県に接する若狭国は、… (略) …、明るく楽天的な人が多く、正直で従順といわれる。

(2) 福井県の豊かさ

日本総合研究所が公表している「全47都道府県幸福度ランキング」⁷によると、福井県は、70の指標をもとにした「幸福度」の総合ランキングが2014年度から2018年度にかけて、3回連続で全国第1位となっています。また、1990年代に旧経済企画庁が毎年公表していた「豊かさ指標」でも、福井県は、1994年から5年連続で全国第1位になりました。

一方で、ブランド総合研究所が2019年に公表した「地域ブランド調査2019」によると、福井県の「魅力度」は全国37位にとどまっています。

福井県が幸福度の高い地域なのか、その一方で魅力に乏しい地域なのか、については、さらに検討する必要があるかもしれませんが、下表にある、住居、所得、健康面等の各指標をみると、福井県が豊かな地域であることは間違いなさそうです。

⁵ 本多義明・加藤哲男・川本義海・小塚みすず（編著）『福井 圏域構成の歴史』財団法人地域環境研究所、2005年

⁶ 「越前は緑の山並みに、若狭は清らかな水に恵まれている」ことを表す用語。

⁷ 寺島実郎（監修）・（一財）日本総合研究所（編）・日本ユニシス（株）総合技術研究所（システム分析協力）『全47都道府県幸福度ランキング2018年版』東洋経済新報社、2018年

▽ 福井県の豊かさ

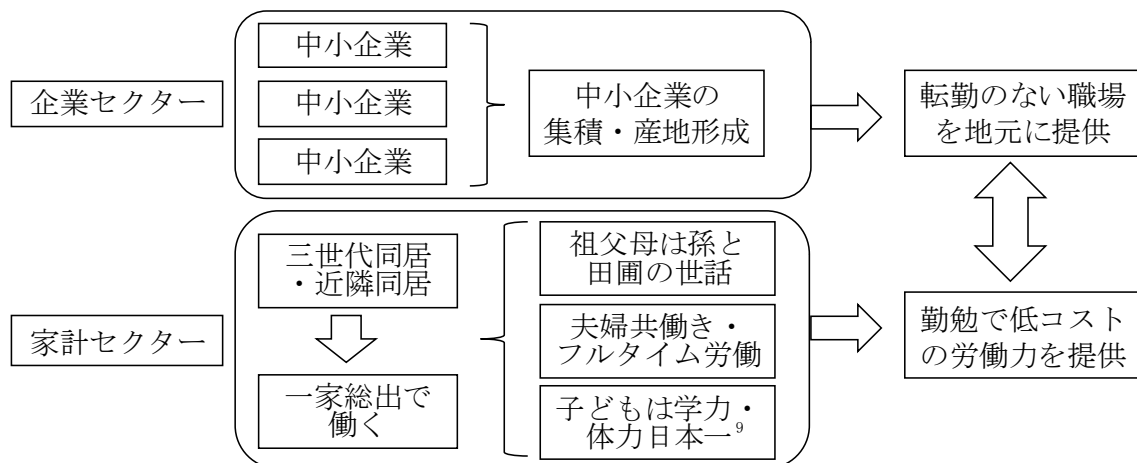
持ち家比率	2018年	74.9%	全国3位
持ち家住宅の延べ面積	2018年	164.7 m ² (1住宅当たり)	全国2位
一世帯当たり県民所得	2015年	8,788千円	全国4位
勤労者世帯の平均貯蓄率	2018年	35.4%	全国1位
一世帯当たり預貯金残高	2014年	12,018千円 (二人以上の世帯)	全国1位
一世帯当たり生命保険残高	2014年	4,467千円	全国1位
平均余命 (0歳)	2015年	男性 81.27歳 女性 87.54歳	全国6位 全国5位
合計特殊出生率	2018年	1.67人	全国7位

(資料) 福井県地域戦略部統計情報課「令和元年版 一目でわかる福井のすがた」、総務省統計局「平成27年国勢調査」、内閣府「県民経済計算」(平成18年度 - 平成28年度)
(2008SNA、平成23年基準計数)

(3) 勤勉と絆の構造

こうした福井県の豊かさの背景として、「勤勉と絆の構造」が指摘されています⁸。すなわち、福井県内の家計は、三世代同居や親の近隣で居住することで、支え合いながら、一家総出で働くことにより経済的な豊かさを得ています。また、県内企業をみますと、中小企業が集積し、分業体制が出来上がっています。こうした中、企業は転勤の少ない職場を家計に提供し、家計は労働力を提供することで、相互に支え合う雇用環境が生み出されています。

▽ 福井県の勤勉と絆の構造



(出所) 松原淳一『福井の経済－福井県はなぜ豊かなのか－』晃洋書房、2012年

▽ 福井県の勤勉さ等

社長輩出数	2016年	1,426人 (出身地別10万人当たり)	全国1位
正規就業者の割合	2017年	61.7%	全国4位
女性の有業率	2017年	54.6% (女性の15歳以上人口に占める割合)	全国2位
共働き世帯割合	2015年	36.1% (一般世帯に占める割合)	全国1位

(資料) 福井県地域戦略部統計情報課「令和元年版 一目でわかる福井のすがた」

⁸ 松原淳一『福井の経済－福井県はなぜ豊かなのか－』晃洋書房、2012年。

⁹ 足許では、学力が全国2位(2018年)、体力が全国1位(2017年)となっている。

3. 産業構造

(1) 福井県は「0.6%経済」

福井県の経済規模をみるうえで、一つの基準となるのが県内人口の全国シェアです。1950年以降の推移をみますと、0.9%台から徐々に低下を続けてきましたが、ここ15年程度は0.6%台前半で推移しています。このため、福井県は「0.6%経済」と捉えると、分かりやすいのではないかと思います。

実際、福井県の名目県内総生産は3.2兆円（2016年度）であり、その全国シェアは、およそ0.6%となっています。産業別構成比をみると、第1次産業は全国平均並み、第2次産業は全国平均より高く、第3次産業は全国平均より低くなっています。

やや詳しくみると、第2次産業については、製造業が全国平均より高いほか、建設業も全国平均に比べて高めです。一方、第3次産業は、電気・ガス・水道、卸売・小売、運輸・郵便、情報通信、不動産を中心に、全国平均より低くなっています。

このうち、電気・ガス・水道については、県内（すべて嶺南）に複数の原子力発電所が立地していることを映じて、2010年度まで全体の1割強を占め、全国平均より高くなっていました。しかしながら、東日本大震災、東京電力福島第一原子力発電所の事故が発生した2011年度以後は、県内の原子力発電所の順次稼働停止を受けて低下し、足許では、全国平均より低くなっています。

▽ 名目県内総生産の産業別構成比（2016年度）（構成比%）

	第1次産業	第2次産業		第3次産業			
	(農林漁業)		製造業	建設業		電気・ガス・水道	卸売、小売
福井県	1.0	32.8	25.2	7.5	66.0	1.8	10.8
全 国	1.1	27.2	21.4	5.7	71.3	2.9	12.6

	第3次産業（続き）						
	運輸・郵便	宿泊・飲食サービス	情報通信	金融・保険	不動産	専門・科学技術、業務支援サービス	公務
福井県	4.0	2.9	2.7	4.1	10.4	7.6	4.7
全 国	5.0	2.5	4.8	4.3	11.7	7.5	4.4

	第3次産業（続き）		
	教育	保健衛生・社会事業	その他のサービス
福井県	4.5	7.9	4.5
全 国	3.8	7.3	4.4

（資料）内閣府「県民経済計算」

(2) 嶺北と嶺南の就業構造

従業者数の産業別構成比をもとに、県内の地域別特徴をみると、嶺北では、製造業を中心に、第2次産業が全国平均より高くなっています。

嶺南では、製造業が全国平均よりも低くなっていますが、建設業が全国平均よりも高いことから、第2次産業は全国平均よりも高くなっています。また、第3次産業では、宿泊・飲食業が全国平均より高めであるほか、原子力発電所の立地を映じて、電気・ガス・水道業が全国平均より高くなっているのが目立っています。

もともと、第3次産業全体としては、嶺北、嶺南とも、全国平均よりも低くなっています。

▽ 従業者数の産業別構成比（2012年2月） （構成比％）

	第1次産業 (農林漁業)	第2次産業		第3次産業			
		製造業	建設業		電気・ガス ・水道	卸売、小売	
福井県	1.2	30.5	21.9	8.5	68.3	1.0	19.4
嶺北	1.2	31.1	23.7	7.4	67.7	0.3	19.7
嶺南	1.4	27.4	13.5	13.9	71.2	4.0	17.8
全 国	0.6	22.1	15.6	6.5	77.3	0.3	20.8

	第3次産業（続き）					
	金融、保険	不動産・物 品賃貸	運輸、郵便	情報通信	宿泊、飲食	医療、福祉
福井県	2.4	1.5	4.3	1.3	8.7	12.6
嶺北	2.6	1.6	4.2	1.5	8.3	13.1
嶺南	1.8	1.3	4.5	0.5	10.9	10.3
全 国	2.7	2.6	5.6	2.9	9.4	13.0

(資料) 総務省「平成28年経済センサスー活動調査」、福井県「平成28年経済センサスー活動調査 福井県分集計結果」

4. 主要産業の特徴

(1) 農・水産業

イ、農業

福井県の農業産出額（2018年）は、470億円と全国44位となっており、全国シェアは0.5%です。福井県の農業の特徴の一つは、米作が中心であることです。福井県の農業総産出額に占める米の割合は、64%と富山県に次いで全国2位です（米の総産出額は全国20位）。なお、米の代表的な品種の一つである「コシヒカリ」は、1956年に福井県農業試験場で誕生しました。

▽ 農業産出額 (2018 年) (億円、%)

	農業産出額				
	米	野菜	果実	畜産	
福井県	470	305	87	10	46
構成比	100.0	64.9	18.5	2.1	9.8
全国シェア	0.5	1.7	0.4	0.1	0.1

(出所) 農林水産省「平成 30 年生産農業所得統計」

また、福井県では、兼業農家、特に農業以外からの所得を主とする第二種兼業農家が大多数を占めている点も特徴です。兼業農家の比率 (2015 年) は、83.8%と全国 1 位です。

▽ 専業・兼業別農家の構成比 (2015 年) (%)

	専業農家	兼業農家		合計
		第 1 種	第 2 種	
福井県	16.2	83.8	75.7	100.0
全 国	33.3	66.7	54.3	100.0

(資料) 農林水産省「2015 年農林業センサス」

ロ、水産業

福井県の海面漁業・養殖業産出額 (平成 30 年、農林水産省調べ) は、95 億円で全国 34 位となっており、全国シェアは 0.6%となっています。このうち、「ズワイガニ」は、34 億円で全国 2 位 (1 位は兵庫県)、全国シェアは 24.1%となっています。また、「サワラ類」は、10 億円で全国 1 位、全国シェアは 9.7%となっています。

(2) 建設業

福井県の建設工事の出来高 (2018 年度) は、6,944 億円で全国 22 位となっており、全国シェアは 1.3%となっています。福井県は、発注者別では、全国よりも公共工事のウエイトが高く、施工種類別では、全国よりも土木工事のウエイトが高いことが特徴です。

福井県の建設業就業者数は、2000 年の 53 千人から、建設工事の受注の減少傾向を映じて、2010 年には 38 千人にまで減少しました。その後、当該受注は増加しましたが、人員の十分な確保には至らず、2017 年には 35 千人になりました。

▽ 県内建設工事の出来高の構成比（2018年度） (%)

		福井県	全国
発注者別	民間	43.7	60.9
	公共	56.3	39.1
施工種類別	建築	28.6	56.5
	土木	71.4	43.5

(資料) 国土交通省「平成30年度建設総合統計年度報」

(3) 製造業

福井県は、嶺北を中心にものづくりの盛んな地域です。県内には、部品製造や中間工程等を担う中小企業や小規模企業が数多く集積し、わが国のものづくりに貢献しています。

—— 福井県産業労働部が作成した「「実は福井」の技」という冊子では、こうした県内企業の優れた技術や製品が、人々の日常生活の中で実は幅広く使われていることを紹介しています。この冊子のタイトルは、福井のものづくりの特徴の一端を的確に示しています。

—— また、福井の人々が古くから進取の気性に富んでいたことを映じて、越前漆器、越前和紙、若狭めのう細工、若狭塗、越前打刃物、越前焼、越前箆の7品目が国の「伝統的工芸品」に指定されています。

福井県の製造業の製造品出荷額等の産業別構成比をみると、化学、電子部品・デバイス、繊維で全体のほぼ4割を占めています。全国平均と比べますと、伝統的な地場産業である繊維、眼鏡枠のほか、化学、プラスチック製品、電子部品・デバイス、電気機械が高くなっています。一方、食料品、生産用機械、輸送用機械では、全国平均より低くなっています。

▽ 県内製造業の産業別構成比（2018年） (%)

	従業者数		製造品出荷額等		付加価値額	
	福井県	全国	福井県	全国	福井県	全国
食料品	6.4	14.8	3.0	9.1	3.5	9.7
繊維工業	21.0	3.3	11.4	1.2	13.7	1.4
化学工業	5.2	4.8	11.1	9.0	12.1	11.1
プラスチック製品	6.8	5.7	7.7	3.9	6.4	4.4
金属製品	5.8	7.9	5.0	4.8	5.6	5.9
生産用機械	4.8	7.9	4.7	6.4	4.6	7.4
電子部品・デバイス	13.6	5.3	16.0	5.0	16.2	5.7
電気機械	4.7	6.3	8.4	5.4	9.5	6.0
輸送用機械	6.5	14.1	8.4	21.4	6.1	18.1
眼鏡（枠を含む）	6.0	0.1	3.1	0.0	4.0	0.1

(資料) 福井県「福井県工業統計調査 平成30年」、経済産業省「平成30(2018)年工業統計表」

イ、化学工業

福井県の化学工業の特徴の一つは、医薬品製剤が化学工業の中で製造品出荷額の27%を占めていることです。また、「化学繊維（原糸）や医薬品、界面活性剤、シリコン、塗料…など様々な分野に分かれており、どれも一業一社となっているのが特徴的である。」¹⁰とされています。

▽ 県内化学工業の分類別従業員数、製造品出荷額等、付加価値額構成比（%）

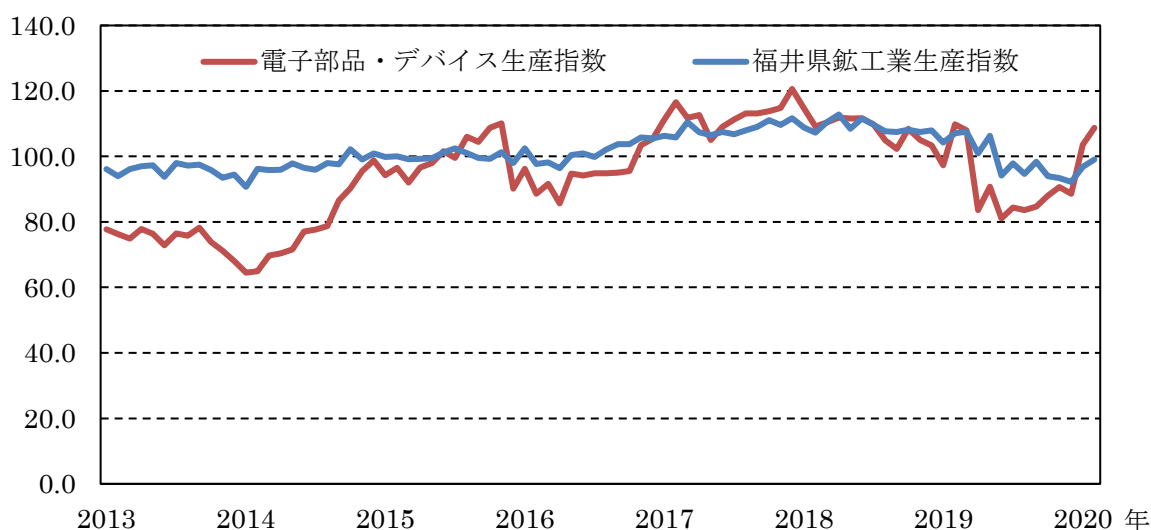
	従業者数	製造品出荷額等	付加価値額
医薬品製剤	32.4	27.6	37.0
プラスチック	12.5	24.0	25.5
環式中間物・合成染料・有機顔料	9.7	6.9	5.3
界面活性剤（石鹼、合成洗剤を除く）	6.7	6.1	7.5
その他とも計	100.0	100.0	100.0

（資料）福井県「福井県工業統計調査 平成30年」

ロ、電子部品・デバイス

製造品出荷額に占める構成比が全国平均を顕著に上回っているのが電子部品・デバイスです。県内では、スマートフォン向け電子部品などが製造されています。福井県鉱工業生産指数をみると、電子部品・デバイスのウエイトは全体の24.7%を占め、繊維工業（14.8%）、化学工業（12.6%）がそれに続きます。このため、同指数は、電子部品・デバイスの生産動向によって左右されやすい傾向があります。

▽ 県内電子部品・デバイス生産指数と福井県鉱工業生産指数（2015年=100）



（資料）福井県「福井県鉱工業指数」

¹⁰ 南保勝『福井地域学—地方再生に向けて—』晃洋書房、2016年。

ハ、繊維工業

繊維工業は、川上：原糸生産→川中：テキスタイル（織物・染色整理）→川下：アパレル（衣服の企画・製造・卸売等）という工程を辿ります。福井産地は主として川中の工程を担い、合成繊維のテキスタイル産地を形成しています。かつて「繊維王国・福井」と呼ばれ、明治期中頃からの羽二重（絹織物）、昭和戦前期の人絹織物、高度成長期以降の合繊織物と、時代とともに変貌しつつ、織物産地として栄えてきました。

もともと、1980年代後半以降の為替円高の進行や、その後の新興国との競争激化などを背景に、合繊メーカーが原糸の国内生産を縮小・撤退する動きが相次ぎ、合繊メーカーから原糸の供給を受けて賃加工を行ってきた福井産地も事業の縮小を余儀なくされてきました。

▽ 県内繊維工業の事業所数および製造品出荷額等の推移（事業所、億円）

	1970年	1980年	1990年	2000年	2010年	2017年
事業所数	4,721	4,342	3,153	1,787	--	--
	--	--	1,457	812	644	529
製造品出荷額等	1,550	3,854	4,158	2,445	--	--
	--	--	3,974	2,352	2,306	2,396

（資料）福井県統計年鑑各年、福井県「福井県工業統計調査」各年

（注）各行中、上段は全事業所ベース、下段は従業員4人以上の事業所ベース。

このように厳しい環境が続く中で、福井産地では、二つの方向での取り組みがみられています。一つは衣料分野での高付加価値化の追求であり、もう一つは産業用資材等の非衣料分野における一層の市場開拓推進です。この結果、事業所数は減少傾向が続いていますが、製造品出荷額等は底を打ちつつあります。

二、眼鏡

福井県は、国内の眼鏡枠生産の9割を占めています。当地での生産は、増永五左衛門氏が農村に適した副業を模索し、1905年に大阪から眼鏡職人を招聘し、眼鏡製造の技術普及を図ったことから始まります。やがて分業体制による産地を形成していきました。

もともと、2000年頃から中国製品を中心に海外から低価格品が流入したことから、福井県の眼鏡枠等の製造品出荷額等は2000年をピークとして、最近ではその半分以下に減少しています。

こうした状況下、福井県眼鏡協会を中心にブランド戦略やマーケティングの強化などにより「安全、安心、高品質」の眼鏡の販売に繋げる取り組みを進めています。また、眼鏡製造の中で培った高い技術力を医療器具などの製造に活用しようとする動きもみられます。

▽ 県内眼鏡枠製造業の事業所数および製造品出荷額等の推移

(従業員 4 人以上の事業所ベース)

(事業所、億円)

	1995 年	2000 年	2005 年	2010 年	2016 年
事業所数	649	935	291	213	233
製造品出荷額等	993	1,239	734	556	575

(資料) 福井県「福井県工業統計調査」各年

(4) 商 業

福井県の小売業の年間商品販売額（2016 年）は、8,837 億円で全国 42 位となっており、全国シェアは 0.6%です。一方、福井県の卸売業の年間商品販売額（同年）は、11,915 億円で全国 40 位、全国シェアは 0.2%です。

▽ 卸・小売業の事業所数・従業者数、年間商品販売額（2016 年）

(事業所数、人、億円、%)

	合計			卸売業			小売業		
	事業所	従業者	販売額	事業所	従業者	販売額	事業所	従業者	販売額
福井県	10,543	71,122	20,753	2,586	21,148	11,915	7,957	49,974	8,838
全国比	0.8	0.6	0.4	0.7	0.5	0.3	0.8	0.7	0.6

(資料) 総務省・経済産業省「平成 28 年経済センサスー活動調査結果」

福井県が全国有数の自動車社会であること¹¹を映じて、商業施設は、駅周辺や市街地、住宅地に少なく、幹線道路沿いや工業地区に多く立地している点が特徴です。特に、福井県の年間販売額構成比の高さについて、「工業地区」は全国 1 位（2 位は岡山県、3 位は山形県）、「ロードサイド型」は全国 2 位（1 位は鳥取県、3 位は三重県）です。

▽ 地区別の商業事業所、年間商品販売額構成比（2014 年）

(%)

	事業所数構成比		年間販売額構成比	
	福井県	全国	福井県	全国
商業集積地区	30.0	36.1	27.4	36.8
駅周辺型	6.4	12.8	5.1	14.6
市街地型	7.2	8.0	3.5	7.3
住宅地背景型	6.3	10.1	2.3	7.8
ロードサイド型	8.6	4.0	16.0	6.4
その他	1.5	1.2	0.4	0.7
オフィス街	12.4	10.5	6.7	12.1
住宅地区	21.0	25.6	18.0	22.2
工業地区	14.9	7.5	27.1	14.7
その他	21.7	20.2	20.8	14.3
合 計	100.0	100.0	100.0	100.0

(資料) 経済産業省「平成 26 年商業統計表」

¹¹ (一社)自動車検査登録情報協会「自家用乗用車の世帯当たり普及台数(都道府県別)」によれば、平成31年3月末現在の一世帯当たり自家用乗用車普及台数は、1.736台で全国1位。

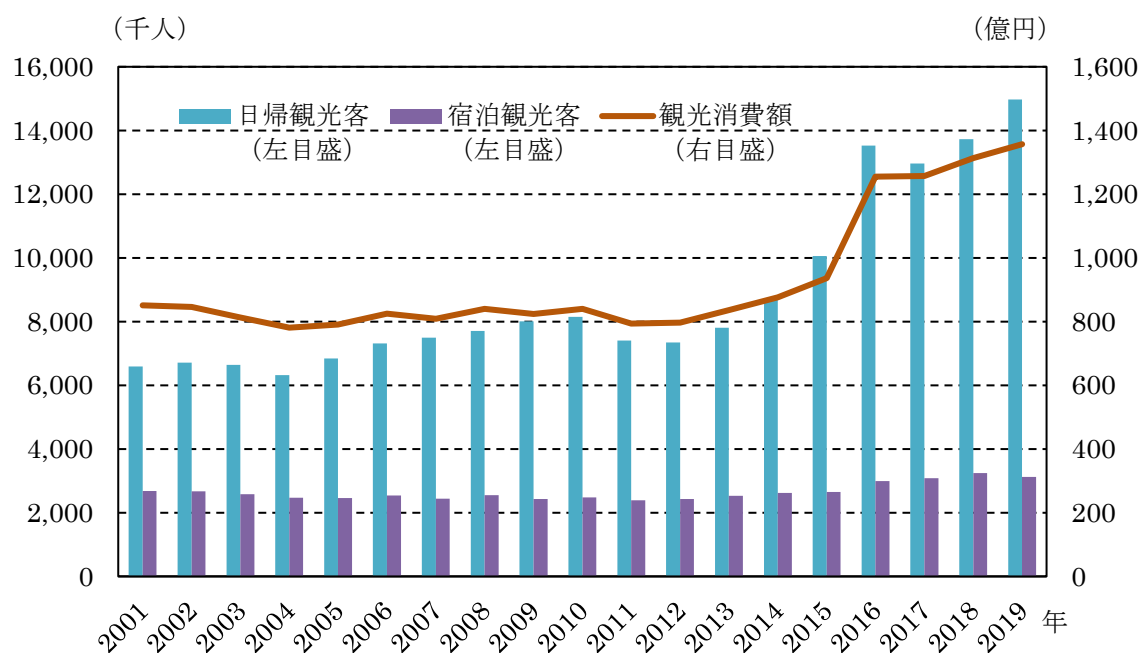
(5) 観光業

観光庁の調査によると、福井県の国内旅行者の主目的地別「旅行消費額」は、1,711億円と全国39位（石川県は20位、富山県は44位）¹²となっており、全国シェアは0.8%となっています。

また、福井県の調査¹³によると、県内の「観光消費額」は、東日本大震災のあった2011年から2012年にかけて800億円を割り込む水準まで減少した後、2019年には1,357億円まで増加しました。2019年の観光消費額のうち約5割を宿泊客が占めています。もっとも2019年の宿泊客数は312万人、全国38位、全国シェアは0.6%と低い水準¹⁴にあり、観光消費額を一段と増加させるためには、こうした滞在型の観光を増やしていくことが重要です。

—— そのためには、県内の誇るべき観光資源に磨きをかけるとともに、観光客に「また来たい」と思わせる「おもてなし」がかぎとなります。

▽ 福井県の観光客入込数および観光消費額の推移



(資料) 福井県「令和元年 福井県観光客入込数(推計)」

福井県内の宿泊施設のうち、ホテル・旅館は芦原温泉を擁するあわら市を中心に所在し、民宿等は嶺南を中心に所在しています。2014年の舞鶴若狭自動車道の全線開通や2015年の北陸新幹線金沢開業に伴って福井県に訪れる観光客は増加しています。

¹² 観光庁「2017年旅行・観光消費動向調査」をもとに試算。「旅行消費額」は宿泊旅行および日帰り旅行（いずれも観光・レクリエーションのほか、帰省・知人訪問等、出張・業務目的を含む）それぞれの旅行消費額を都道府県ごとに合算し、47都道府県の合計額に占めるシェアを算出。

¹³ 福井県交流文化部観光誘客課「令和元年 福井県観光客入込数(推計)」。

¹⁴ 観光庁「宿泊旅行統計調査(令和元年・年間値(確定値))」。

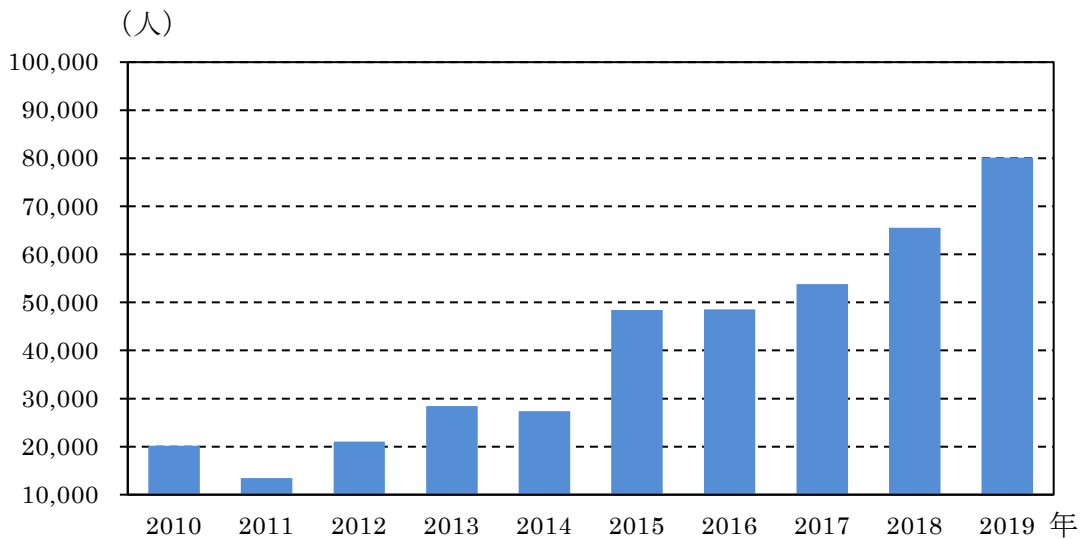
▽ 福井県内の宿泊施設配置状況 (軒、人)

	ホテル・旅館		民宿・ペンション等		その他とも計	
	軒数	収容人員	軒数	収容人員	軒数	収容人員
嶺北	43	8,412	224	10,627	324	28,219
あわら市	15	4,659	12	1,300	30	6,246
福井市	9	2,127	44	3,177	63	6,505
嶺南	14	1,501	378	13,540	410	17,487
敦賀市	4	361	46	2,556	52	3,089
小浜市	5	659	60	2,156	66	3,115
高浜町	1	66	110	3,552	115	4,293
若狭町	2	172	77	3,048	81	3,390
その他とも計	57	9,913	602	24,167	734	45,706

(資料) 福井県観光営業部観光振興課「令和元年 福井県観光客入込数(推計)」

また、福井県の外国人延べ宿泊者数は、2014年(27千人)以降増加していますが、2019年は80千人で全国45位となっており、全国シェアは0.08%と低い水準となっています。

▽福井県の外国人延べ宿泊者数の推移



(資料) 観光庁「宿泊旅行統計調査/統計表」

福井県内では、2023年3月までに、北陸新幹線の延伸(金沢～敦賀)により、4つの新幹線停車駅の整備を含む北陸新幹線の開業が予定されています。福井県は、この機会を捉え、「FIRST291～北陸新幹線開業プラン～」を策定し、2021年度から2025年度までの5年間で、①「ふくいブームの創出」、②「受入環境のレベルアップ」というソフト面の対応に注力することになっています。地域経済の維持・発展のためには、こうした動きがさらに展開し、行政区域や各主体(行政、民間企業等)が垣根を越えて連携することにより北陸の観光産

業のグランドデザインを共有し、福井県にとどまらない地域一体となった「おもてなし」を具現化することが望まれます。

(6) 原子力発電

福井県は、原子力発電所がもっとも集中して立地しています。国内の商業用原子炉は、2020年4月時点で33基ありますが、そのうち8基が県内(すべて嶺南)に立地しています。このほか、2015年4月から2018年3月までに廃炉となったものが5基あり、また建設準備中のものが2基あります。また、すでに運転終了となっていますが、日本原子力研究開発機構の高速増殖炉1基(「もんじゅ」)があります。

—— 福井県内の原子力発電所8基の出力合計は約8百万kWで、国内原子力発電の4分の1近くを占めています。

▽ 福井県内の原子力発電炉

(2020年4月3日現在、シャドーは廃炉ないし建設準備中)

原子力発電炉	運営	営業開始	出力(万KW)	現状
美浜発電所1号機	関西電力	1970/11月	34.0	2015/4月に廃炉
美浜発電所2号機	〃	1972/7月	50.0	2015/4月に廃炉
美浜発電所3号機	〃	1976/12月	82.6	2011/5月から定期検査・安全対策工事中
高浜発電所1号機	〃	1974/11月	82.6	2011/1月から定期検査・安全対策工事中
高浜発電所2号機	〃	1975/11月	82.6	2011/11月から定期検査・安全対策工事中
高浜発電所3号機	〃	1985/1月	87.0	2012/2月から定期検査中
高浜発電所4号機	〃	1985/6月	87.0	運転中
大飯発電所1号機	〃	1979/3月	117.5	2018/3月に廃炉
大飯発電所2号機	〃	1979/12月	117.5	2018/3月に廃炉
大飯発電所3号機	〃	1991/12月	118.0	運転中
大飯発電所4号機	〃	1993/2月	118.0	運転中
敦賀発電所1号機	日本原子力発電	1970/3月	35.7	2015/4月に廃炉
敦賀発電所2号機	〃	1987/2月	116.0	2011/8月から定期検査中
敦賀発電所3号機	〃	-	153.8	(建設準備中)
敦賀発電所4号機	〃	-	153.8	(建設準備中)
高速増殖原型炉 もんじゅ	日本原子力研究 開発機構	-	28.0	2017/12月に運転終了
新型転換炉ふげん	〃	1979/3月	16.5	2003/3月に運転終了

(資料) (一社) 日本原子力産業協会「日本の原子力発電炉(運転中、建設中、建設準備中など)」

福井県は、1970年以降、40年余に亘って原子力発電所との「共生」を図ってきました。しかし、2011年3月の東日本大震災、東京電力福島第一原子力発電所の事故の発生を受けて、原子力発電所の今後の再稼働を取り巻く環境には厳しいものがあります。県内の商業用原子炉については、2015年4月に3基、2018年3月に2基が廃炉となったほか、高速増殖原子炉「もんじゅ」も、2017年12月に運転終了となりました。

原子力発電所の稼働停止の長期化や一部原子炉の廃炉は、立地地域である嶺南の経済に次のような形で影響を及ぼしています。

① 関連事業者への影響

福井県の「平成 28 年経済センサスー活動調査」によれば、嶺南の「電気業」の従業員数は、25 百人程度となっています。また、各原子力発電所の各種の維持補修等に当たって、建設業等に分類される協力会社や、下請業者が関わっています。さらに、原子力発電所の稼働中や稼働停止後の定期検査中には局面に応じて県外から作業員が入ってきます。こうした中、域内に宿泊・飲食業等の雇用が創出されてきました。原子力発電所に直接・間接に関わる就業者は、嶺南全体の 2 割前後とも言われています。このため、原子力発電所の稼働停止による嶺南経済への影響は小さくありません。

② 地方自治体への影響

地方自治体には、原子力発電所の立地・稼働により、法人税等、固定資産税、核燃料税、電源三法交付金等が入ります。原子力発電所の稼働停止や、一部原子炉の廃炉は、こうした税収等の動きを変化させ、関係する地方自治体の財政構造に影響を与えることになるとみられます。

5. 今後の課題

福井県では、「勤勉と絆の構造」に支えられ、豊かな地域社会を築いてきました。もともと、当地を取り巻く環境は徐々に変化しつつあります。最大の変化は、人口の減少と高齢化の進行です。また、グローバル化の流れの中で、県内企業は、取引先企業の海外移転への対応や、成長する海外需要、インバウンド需要の取り込み等の課題に直面しています。

これまでに培ってきた当地の豊かさを今後も維持していくためには、これらの環境変化に適切に対応していくことが求められます。この点、福井県民の「勤勉さ」や、ものづくりの中で発揮されてきた「進取の気性」はそうした行動を強力にサポートする当地特有の「強み」と言えるものです。

また、このような取り組みに当たっては、企業や業界、地域の枠を超えた新たな「絆」を結ぶこと―連携―も重要です。

以 上